

## 第75回 経営協議会 議事要録

日 時 令和3年3月18日（木）13時30分～14時30分

委 員 澤 和樹 学長【議長】  
安良岡章夫 理事・副学長  
日比野克彦 美術学部長  
桐山孝司 大学院映像研究科長  
熊倉純子 大学院国際芸術創造研究科長  
遠山敦子 委員、福井俊彦 委員、滝 久雄 委員  
谷口維紹 委員、二宮雅也 委員、福本ともみ 委員

陪 席 浜田健一郎 監事、上田良一 監事

清水泰博 理事・副学長、麻生和子 理事、松岡正和 理事・副学長・事務局長  
岡本美津子 副学長、藪内佐斗司 副学長、八反田弘 副学長  
佐野 靖 学長特命（社会連携担当）  
箭内道彦 学長特命（広報・ブランディング戦略担当）  
秋元雄史 大学美術館長  
河野文昭 演奏芸術センター長

欠席者 杉本和寛 音楽学部長  
富田哲郎 委員  
国谷裕子 理事  
桂英史 附属図書館長

- 審議に先立ち、松岡理事から事務系幹部職員の異動についての報告があった。
  - ・豊嶋美穂子 国際企画課長

### 議題

1. 令和3年度予算実施計画書（案）について  
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
2. 令和3年度国立大学法人東京芸術大学年度計画（案）について  
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
3. 令和3年度修繕計画について  
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
4. 規則等の制定等について
  - ・東京芸術大学職員給与規則等の一部を改正する規則等の制定について（案）  
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
  - ・東京芸術大学職務限定職員給与規則等の制定等について（案）  
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
  - ・東京芸術大学非常勤講師就業規則等の制定等について（案）  
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
5. 国際交流会館（松戸寮）に係る留学生等宿舎機能の廃止について  
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。

### 報告及び連絡事項

1. 令和3年度運営費交付金の概要について  
標記のことについて、荻原戦略企画課長から資料に基づき報告があった。

## 2. その他

- ・本学の取組みについて
- 澤学長から、芸術文化における本学の近況について報告があった。  
(受賞等)
  - ・2021/3 ベルリン国際映画祭で本学修了生 濱口竜介監督『偶然と想像』が銀熊賞受賞
  - ・2021/3 令和2年度（第71回）芸術選奨文部科学大臣賞及び同新人賞受賞  
(東京藝術大学若手芸術家支援)
  - ・2021/3 ポストコロナ・アーツ基金 これからの社会をアーティストと探る
  - ・2021/2 <若手芸術家世界発信プロジェクト>「東京藝大アートフェス2021」3月18日開催！

### ※コロナ禍におけるご助言、ご提言等

○ コロナ禍の中で芸術がどう発展すべきかは重要な課題である。Society5.0 で謳われている中で IT が発達しても営みは人間が行うことであるため、そこでの芸術の力は非常に強いと思われる。ただ芸術だけが単独で活躍するわけではなく、国の資料でも文化芸術立国として日本が成り立っていかないとならないと強く謳っているため、東京藝術大学のような社会に発信するような組織が Society5.0 にどのように積極的な役割を果たしていくか、政府や行政は東京藝術大学に目を向けて欲しいと思っている。藝大としての方針・在り方を検討していただければと思う。

○ 東京藝大は日本の芸術関係者がどのようにニューノーマルな時代に生きていくかを希望が持てるようなモデルを東京藝大で考えていただけないか。地方の行政でも文化は大事であることをわかってはいるが、どうすべきか戸惑っているのが現状である。少なくともアーティストを支援するためには、ニューノーマルな時代に何らかの活動をしながら収入を得られるようなモデルを藝大だけでなく他を巻き込んで作り上げていく必要があるのではないか。

○ 他大学のようにオンラインだけでは不十分であるということで学生が休学の道を選んでいるのか、休学者が増えていることについて気がかりな面がある。オンラインで行ってもお互い不十分な部分が出てくるので、その時には対面でも行うことが有効的であると感じている。

○ Society5.0 の件で、地球規模の課題解決のためにイノベーションを起こすには自然科学と社会構想の為の人文科学、社会実装の為の社会科学の3つの融合が必要でありことが言われている。中でも人文科学分野で芸術では国の認識の注力が不十分ではないかと感じている。前回会議で言及した博士課程 1,000 人の年間 200 万超の支援制度が実施となるようだが、ここでも自然科学が強調されて対象 47 大学の中に藝大が入っていないと聞いているが、藝大も高度な博士人材育成を推進している中で大変残念なことである。我が国唯一の国立総合芸術大学として芸術の果たす役割や存在価値を発信すべきであると思われる。芸術は人間が生きる上で重要であるという認識を定着させるよう努力をしていきたいと思う。

○ コロナ禍で人と人との接触がままならない中でサントリーホールやサントリー美術館も閉館を余儀なくされた。その中でオンラインで音楽や美術を届ける活動も行ってきたうちにオンラインだからこそのことも多く発見すること（サントリーホールにこれまで地域的な問題で来られなかった方や身体的にお越しになることが難しい方との接点を持つこと）ができ、オンラインならではの魅力を届けることもできたという発見ができた。一方で久しぶりに音楽を再開できた際に同じ場で音楽を共有することに格別の感動を感じた。オンラインについてはオンラインで高めていける芸術と、リアルでなければ共有できないものと両方あると感じ、芸術の大きな可能性が二つ広がったと感じた。ビジネスの中でお客様の意識がどう変わったかを考えると自分たちも誰かを支援したい（支援購買）というところに資金が集まっている。そういった中で芸術の意味合い（社会性）がこれから益々必要になってくるのではないか。そういった人材を育てている東京藝術大学として社会性（美術や音楽を通して社会に貢献）を更に強化されることによって卒業生らの力になっていくのではないか。

### ※その他

- 議長から、下記のとおり今年度末で退任される委員等の紹介があった。  
外部委員：福本ともみ 委員  
陪席者：松岡正和 理事・副学長・事務局長、籾内佐斗司 副学長、  
秋元雄史 大学美術館長、桂英史 附属図書館長  
松岡理事から事務系幹部職員の異動・退任について報告があった。
  - ・坂本亜紀子 総務課長、小林克夫 社会連携課長